

## 第四回総合計画・総合戦略推進会議 会議録

【日 時】 令和6年11月19日（火） 9:00~12:00

【場 所】 南伊勢町役場南勢庁舎 3F 会議室

【出席者】

委員長	村林 守	三重中京大学名誉教授
副委員長	田畑 紀實	南伊勢町区長連絡協議会
	木下 和行	南伊勢町農業委員会
	小林 悦雄	南伊勢町老人クラブ連合会
	森 真美子	南伊勢町商工会
	玉山 寿美	一般社団法人みなみいせ元気ネット
	米本 美津子	南伊勢町民生児童委員協議会
	上村 由佳里	南伊勢町社会福祉協議会
	広田 真理子	南伊勢町 副町長
	梅村 富士子	南伊勢町 税務住民課 課長
	島田 将秀	南伊勢町 高齢者支援課 課長
	瀬古 智秀	南伊勢町 子育て・福祉課 課長
	田畑 武文	南伊勢町 教育委員会 事務局長兼建築専門監
	生野 憲一	南伊勢町 総務課 課長
	里中 重信	南伊勢町 環境生活課 課長
事務局	小嶋 信人	南伊勢町 まちづくり推進課 課長
	小山 将彦	南伊勢町 まちづくり推進課 政策係 係長
	松尾 早里	南伊勢町 まちづくり推進課 政策係 主査
	奥 夏海	南伊勢町 まちづくり推進課 政策係 主査

発言者	発言内容
<p>委員長</p> <p>まちづくり 推進課長</p>	<p><u>1 開会</u></p> <p><u>2 会議趣旨説明</u></p> <p>前回大変活発なご意見をいただき、随分と参考にさせていただいた。今回も活発な意見をお願いしたい。</p> <p>前回に引き続きテーマを設け、事務局から説明のうえ意見交換となる。</p> <p>本日は「誰もが元気なまち」「輝きをもてるまち」プロジェクトについてご審議いただきたい。詳しくは担当課から説明を行う。</p>
<p>事務局</p>	<p><u>3 議事</u></p> <p><b><u>(1)重点プロジェクトに関する説明・意見交換</u></b> (誰もが元気なまちプロジェクトについて説明)</p> <p>総合計画総合戦略推進会議説明追加資料第4回の資料を元に説明を行う。</p> <p>2ページの誰もが元気なまちプロジェクトについて、町民アンケートの評価結果は、令和5年度は令和4年度に比べて、「取り組んでいると感じる町民の割合」が減少している状況となった。各課からの第4次総合計画の進捗状況の自己評価を確認しながら、要因を検討しているところ。減少した主な要因としては、婦人会や老人会など、従来は行政が関与してきた組織での活動の低下が考えられる。また、高齢者割合が過去より増加していることも影響があると考えている。</p> <p>各課の評価の中では、「コロナ禍より活動自粛の機会は減少してきている」「民間主導や民間同士の連携の取り組みが増えてきている」という評価はあるものの、評価結果として「役場が取り組んでいると感じる町民の割合が減少してきている」とあり、従来の活動における高齢者割合の増加による参加者数の減少が要因として考えられる。</p> <p>3ページ、目標達成のための主な取り組みとして、「高齢者が元気で輝く心身の豊かさの実現」に関しては、新規サロンの開催回数が令和4年度の270回に比べ、令和5年度では651回に増加しているが、コロナによる自粛解除の影響と評価している。また一方で、各教室の参加者数が減少している。それ以外の取り組みとしては、後期高齢者に対するハイリスクアプローチとして、栄養パトロールの実施なども行いながら、高齢者が元気で輝く心身の豊かさの実現のために取り組みをしてきたところ。生活を支える医療、福祉に関しては、地域医療ネット設置に向けた調整を昨年度進め、今年度5月1日に設置した。また、障害福祉施設の高台移転に向けて調整をしてきたところ。</p> <p>4ページ、笑顔溢れる生涯現役、生涯活躍に関しては、生涯学習サークル参加者数は一定数を推移していると評価をしている。また、子ども向けのイベントは開催回数を回復してきていると評価をしている。一方で、文化祭の入場者数に関しては、令和4年度の998人が令和5年度で657人と減少した。</p> <p>5ページ、多世代による支え合いについて、町民アンケート結果の「多くの町民の方が交</p>

流できる憩いの場が増えたと感じる割合」に関しては、令和4年度の28.5パーセントから令和5年度は35.3パーセントに増加している。令和6年7月現在、ボランティアグループは、社協さんのホームページにて44団体の登録を確認している。

また、他にも、若い年代で他世代の交流の取り組みが増えてきており、うみべのいえプロジェクト、アツマルデザイン、わかくさマルシェ、ほのぼのマルシェなど、新しい団体の活動やマルシェの開催が行われていることにより、「交流できる憩いの場が増えたと感じる割合」に影響していると考えている。

6ページの評価結果の分析について、医療、福祉に関しては、高齢者数は減少しつつも高齢者割合がさらに増加し、後期高齢者の割合も増加している。これに伴い介護、医療、交通、買い物含め高齢者の暮らしの不便が増えてきたことから、こういった評価結果になったと考えている。また、介護、医療に関しても、遠隔診療など、さらなる高齢化や人口減少を踏まえた対応も必要だと認識している。

生涯活躍・多世代の支え合いに関しては、全体的には多様な取り組みが生まれてきている状況と評価している。高齢者の生きがいづくりに繋がるものは多いが、集落機能を支えてきた婦人会、老人会、活性化団体の活動は低下してきていると考えている。出合い作業や婦人会や活性化団体など、地域ではかつて当然のように行ってきた、集落での生活環境を支えてきた組織が、高齢化により、地域によっては機能しなくなっている状況が見えてきている。そのため、地域の担い手をいかに確保するかも課題であり、他の自治体では、地域運営組織や集落支援員、生活支援コーディネーターが連携する事例もあり、いかに地域に合った方法を考えるかが必要と考えている。

7ページ以降は高齢者割合等の参考資料となっている。年齢中位数（全年齢中の中央数が何歳か）については、南伊勢が67歳ということで全国19位である。65歳以上人口割合に関しても、55.5パーセントで全国24位、75歳以上の人口割合が33.4パーセントで全国14位というところもあり、全国的に高齢者割合が高い町であることを認識しながら、今後施策を考えていかなければと考えている。

8ページ、9ページの資料については、集落での生活環境を支えてきた組織が高齢化により機能しなくなりつつあるという部分に関して、現状を各地区別に表にしたもの。黄色部分が特に年少人口や若年人口が少ない地域となっている。

10ページについて、今の令和6年4月30日の人口が令和44年までスライドした場合の地区別の人口を分析している。各地区によっては生産年齢人口が0になる地区も出てくるであろう点も、今後の生活をどう支えていくのかというところで検討すべきだと考えている。

最後に、町民アンケートの評価が低下する要因についてお聞かせいただきたい。また、高齢化が今後も進む中、今後必要な医療、福祉、生活環境、介護などの対策として求められるものは何かという部分に関して、またご意見等いただけたらと考えている。

委員長

深刻な高齢化が進んでいる中で、取り組みの方も進んでいる。状況を踏まえてご意見賜りたい。

委員

社協ではサロンを実施しており、この44団体あるボランティアグループは、そのほとんどがサロンを実施する団体。現在は道方や道行電でサロンの機能がなく、社協の方でもサロンがない地域でサロンをやりたいと思っている。一方、高齢者は同じ地域内でさえ外出自体が難しくなっている。その方たちを外に出す方法が課題。ボランティアグループ

	<p>や老人クラブの中で、そのような取り組みをしていただければと思う。老人会で、声をかけても出てもらえなかったらもう無理なんだと思ってしまうと、その地域ではその高齢者の方が外に出なくなってしまう。</p> <p>委員 切原地区で、10月に毎週木曜日、午前10時から11時まで1時間、社協さんから声をかけられて4回サロンを実施した。昔話をすることをコンセプトにした思い出喫茶というサロン。切原では老人会が閉会しているため、なおのこと喜んでくれた。コーヒーやお茶、お菓子は社協さんが提供してくれた。毎回非常に盛況で平均30名は来ており、月に1回でも開催を考えてほしいという皆さんの声を聞いている。毎回木曜日と決めてあり、認知症の防止に曜日を覚えてやってきてくれて嬉しかった。</p> <p>また、デマンドバスの定期便の実証実験をまた実施予定ということで、利用者も少ない中、取り組んでもらい感謝している。自分も利用させてもらった。病院の玄関まで行ってくれるため便利だった。帰りに課題がある。高齢の方ではその予約をうまく取れない。病院の受付で、あらかじめ何時のバスに乗りたいと伝えて、会計の方を早めてもらえれば違うかもしれない。バスで来ている（から早くしてほしい）と窓口で言えない人がおり、自分は車で来ているので、代わりに先に会計してあげてと伝えたが、順番があるからかできないと言われ、その人はバスに遅れたと思う。そんなことを目にしたので、病院の方は負担かもしれないが、カルテに帰りはバスに乗りたいと書いてもらい、スタッフが見て融通を効かせるなどしてもらえればと感じた。</p>
委員	<p>高齢者の方で、どうしてもサロンへの参加や外出が難しいという人は一定数出てしまうので、そこに至る前に何かアクションを起こせばということで、高齢者支援課から委託を受け、元気シニア健康教室を実施している。まだ元気づくりや健康づくりをスポーツとして捉えられる年代の人たちを体育館に集めて運動し、コミュニティを作るという活動を、高齢者支援課のサポートを頂きながら行っている。4年前から9教室で行っているが、延べの参加人数が年間大体6,000人から6,400人ほどで、横ばいとなっている。元気シニアクラブの登録人数も、入れ替わりはあるものの大体毎年200人前後で推移している。ずっと関わっている身としては、えるがあ教室などの参加者で自分も体育館でできるかと思って来てくれるといった関わりが、地域とできていることがとても良いと思っている。シニアクラブの行っている元気シニア健康教室は、リーダーを全て地域のシニアにお願いしている。現状、50人のリーダーがいるが、一極集中ではなく、各地域の老人会長など地域の方たちのことをよく知っている方たちがなっている。独居の方に対して、今日来なかったらちょっと見ていこうかなどのサポートをしてくださっている。自分たちでコミュニティをどんどん作っていている状況もある。教育委員会のサポートを受けているトレーニングルームも年間4,000人ほど利用があるが、シニアさんたちが午前中もたくさん見えて、そこでコミュニティができている。私たちの活動は、教育委員会などのサポートを頂きながら続けていける活動なので、この活動自体は、利用者数が下がっていくのが自然の中、横ばいとなっているのはすごいことだと思っている。ぜひこういった現状も知っていただき、また何かこちらからやりたいことも聞いていただけたらと思っている。</p> <p>また、文化祭の入場者数について、令和4年度が998人で令和5年度が657人となっているが、その要因は、令和4年度まで新聞折り込みで文化祭のプログラムを入れていたのを、令和5年度から当日配布になっていることだと思う。現場でよくシニアさんらにプログラム</p>

	<p>はないかと聞かれるが、出品者や発表者が事前にわかっていることによって、来場者が増えると思う。担当者の方に相談して元気ネットにプログラムを置かせていただき、20人ほど貰いに来てくれた。新聞折り込み広告の予算がなければ、ホームページからのダウンロードや地区での回覧、町文や庁舎などへの事前のチラシ配置などを行えば非常に良いと思う。元気ネットでは伊勢からダンスの教室を招聘し、子供たちが南伊勢町でダンスを習えるようにしているが、そのダンスの子たちも踊らせてもらった。その子供たちの家族なども、あの子が踊るんやったら見に行こうかとなると思う。</p>
<p>委員</p>	<p>自分は普段、商工業者の方の支援を行っているが、家族と同居している高齢者からは元氣なうちは店を続けるという声を聞いている一方、独居の方からは、年を重ねるにつれ最近何をすることも億劫だという声をよく聞く。先ほども言われていたように、その地域のサークルの中に入って行くのも面倒だとか、そういう方たちが多い。そうなる前に、空き家や空き店舗、特にすぐに飲食事業が始められる過去飲食店だった店舗などを提供していただき、地域の若手の方から営業まで行かずとも何かしたいという声も聞いているため、そういう方たちと連携して、地域の中で携われる方が順番で運営する等でサロンができるようにすれば、高齢者の方でも気軽に誘い合って、和気藹々と過ごせる場所ができると思う。</p>
<p>委員</p>	<p>自分の地区でもサロンを始めて、5、6年経った。当初は20人近く来ていたが、今は10人を切るくらいになった。原因はサロンの内容のマンネリ化だと思う。また、老人会の連合としてもいろいろ事業を展開しているが、最近はスポーツ大会が結構充実している。ゲートボール大会2回、グラウンドゴルフ大会2回、フリーピンポンの大会2回など開催しているが、中にはそれに参加できない方も結構いる。今まで老人会の方では町全体の大会などを考えていたが、旧町村単位で大会を行うということを考えて進めている。あとは、この前あった度会郡のスポーツ協会の大会の中で、教育委員会の方と、災害時の協力体制や協定を結んでいるので災害時もスムーズに動けるように町の中での交流・郡の中での交流を進めていこうと話した。</p> <p>ただ、サロンは時間や内容、やってはいけないことなどの条件が決まっているが、例えば今までサロンがなかった村山地区では、何か行う際にそれと合わせてサロンをやろうという話が出ている。その場合は実施回数は少なくなる。私達は定期的実施しているので、回数は年間50回くらいになっている。ただそういうところがあるので、例えばえるがあ教室の後にサロンを行えるなど、サロンの条件を考えてもらえればもう少し増えるのではと思う。サロンの事例などの資料をいただければ参考になる。</p>
<p>委員</p>	<p>65歳以上人口割合等の国勢調査の表を見てまず思ったのは、これは我々や現役世代が努力してランキングを下げていく努力をしないといけないということ。</p> <p>まずは農業を取りまく現在の南伊勢町の環境について、共通認識のために申し上げたい。南伊勢町全体で米作りが90ヘクタール程度、みかん栽培が60～70ヘクタールとなっている。水稲にしてもみかんにしても、高齢者が担っているのが現状。みかんに関しては、デコ（不知火）も作物面はある。それらを中心に行われているが、やはり九州や南紀の方には随分その遅れを取っている。みかんについては、三重県のでこぼん等の高級なみかんは、タイや東南アジアの方へ輸出をどんどん広げている。また、全国農業新聞、全国農業共済新聞によると、25年産の主食用米は来年度は683万トンを生産している。日本の米が美味</p>

しい理由は、大陸の水が非常に喉に引っかかるような硬水であるのに対し、日本の水は軟水で、その軟水で米作りをするため。そのため、中国の富裕層や東南アジア、欧米、ヨーロッパは企業が次々に進出している。

農林水産省の考えとしては、その683万トンは国内で消費し、それから海外の輸出用米を増産するとしている。日本の農地では1,700万トンまで米を生産できる余裕があるということになっている。日本の人口は減っているが、世界は今後25年の間で、87億人から105億人まで増える。そういった日本の第1次産業の産品を国外へ輸出し国力の強化に繋がりたいということで、農業委員会の上の組織である三重県農業会議、さらにその上の全国農業会議の方へ出席すると、そのような熱い農家の声を聞くことが多くある。

そんな中、当町は微々たる農業の生産地ではあるが、やはりどの地区を見ても荒れ放題になっている。地域が荒れてしまえば、どうしても活力のない町になってしまう。

その中で非常に良いことが書いてあったのは、6ページの「生涯活躍、多世代による支え合い」の1番下の方に、地域の担い手をいかに確保するかが課題とあるが、他自治体では、地域運営組織、集落支援員、南伊勢町では、地域おこし協力隊や集落支援員の制度でいろいろな若い方を入れていただき、さまざまな部門で活躍をしている。中でも総務省の制度である集落支援員は町の負担がない国のお金を使った制度のため、こういった制度をどんどん利用し地域の下支えをするということを行政で進めていただき、我々にこういう風に動きなさいという指示をいただければ。

また、国土の有効利用という観点から、農地や山林にソーラーパネルを置いて雑種地などに変更すれば、太陽光発電に関する器具や機械が置かれることによって動産税を得られる。税収を高めて住民サービスを充実させることで、他の地域から人に来ていただくのがよい。売電事業者から税を多く取ることは町のためになるのでどんどんやってほしい。もちろん農地を太陽光発電用に変えないといけないという意味ではない。30年先には太陽光発電ではない時代が来るので、それまでは外貨を稼ぐことを大事にしてほしい。

1つ返答していただきたいのは、集落支援員のことについて教えていただければ。

副委員長

1つは、高齢者がどんどん増えてきて、人口も減ってだんだん衰退していく。その現状の中で、この町に暮らす人はどんな豊かな暮らしを求めていくのか。その暮らしのためにはやはりコミュニティを作り、その中でいろんな人が混ざって、心の豊かさを求めていく。それには健康が大事なので、いろんなメニューにおいて社協や委員が主催する組織が頑張っているし、民生委員さんのように、任務に崇高な精神を感じてその分野で頑張っているのだという現実があった。

また、国際的なものの見方からして、まだまだ外国に目を向ければ一次産業は元気に、しかも経済的に満足した生産活動に励むことができるという話があった。いずれも面白い話で体を成すところがあり、随分これからは面白いなという感覚で話も聞いていた。

事務局からデータを出してもらったが、自分もこのデータを見て驚いた。これからは人口減少という言葉では言い表せない状態が出てくる。つまり、加速度的に人口減が始まる。これまで我々が体験したことのないような急激なコミュニティの破壊がこれから訪れてくる、まさしくその入り口だと思う。そのため、町を離れて国際的な視野でこの町について考えるということ、公務員の皆さんには必ずやってほしい。

自分が区長に就任した約20年前、この村をどのように経営するかで悩んだ。区長とはその地域の経営者だという感覚。

我が区にはどんな資源があるかと考えた。まず、心の優しい人的資源を何かに活用しない手はないと思い、行政の高い理解を得ながら取り組みを行った。

志摩市の社協で「画一的で押し付けで、社協の活動が面白くない」と不平不満を持つての方が多くいた。では神津佐に来ないかというのがファイトだった。

神津佐でそれを作れば南伊勢町も視野に入る。一市一町をエリアにして活動したらどうかということで、自分の方から事業主や事業所のアプローチを行った。家賃の契約や労働力の方も区長の方で極力世話をした。

その事業所はやがて5つの事業所に発展し、今は福祉関係でスタッフ50人はいる福祉研究会合同会社になり、昼間の人口が50人増えた。

もう1つは、太陽がよく照り、緑があり、空気が綺麗なこと。もう1つは、第一次レジャーブーム、第2次レジャーブームで開発して荒廃した土地が結構あった。その土地を太陽光発電で活用することを考えた。こちら区長自らが誘致する、ただし小さいのはダメだと。三交不動産株式会社と、日本最大のエネルギー会社であるエネオスが今やっている。経産省が20年間に限って補助金を出すので、20年は太陽光発電で行こうと思った。荒廃した土地の所有者等の整理を私の方で引き受け対処した。現在稼働中で、そのお返しに神津佐に活性化協力金を貰っている。当初は4年に1回各戸に10万ずつ配当することを考えたが、地縁団体は非営利団体のため配当ができなくなった。そのお金を公民館に投資することにした。公民館は作るのが目的ではない。公民館に投資した価値を、今後どうやって区民が上げていくのか。これが公民館への投資を持ってくれた町に対する恩返しだと思っている。

予算化してもらったということは、投資をしてもらおうということ。それに恩義を感じて、住民がどのようにその恩に返していくのかということを考えていけば、進路が決まってくる。「やってもらって当たり前」とか、「やってもらったからもうできた」というのは違って、やってもらってからがスタート。私は、今の発電所が完成したと同時に、三交不動産に20年後には農業生産工場を作ってくれと言っている。当初は全然相手にしてくれなかったが今は河芸町でトマト生産に取り組まれている。これは本当にありがたい。

また、別件でアプローチしているのがグランピング。しかし、これも時代遅れだと思っている。自分が今考えているのは農業と水産の一体化。委員が国際的な視点から言及してくれたように、国土の有効利用で、日本の人口の消費力が落ちるから輸出に回そうと。

一方で、地球変動で、農業にしても漁業にしても、生産物がどんどんリスクを伴うようになる。そうした場合、農業も漁業も陸で生産する時代になる。

ただ、誰もチャレンジしない。パイオニアはリスクを取る。人間の欲望はどんどん膨らんでいく。そうになると、人間が宇宙に飛び出したように、土地や自然の海だけに依存せず、農業、漁業も地球上でカルチャー（土壌）を作り出していくという時代だと思う。東京では、未来のアグリカルチャーであるアクアポニックス（水産養殖と水耕栽培を一体化した農業）の実証実験が行われている。一次産業の未来のために新しい価値を創造するという観点から、この陸上養殖のビジネス化を真剣に検討するべきだと思う。これは、3つの成分を調べて一定の濃度にすると、海の魚が飼えるようになるもので、その水槽で養殖した生物の排泄物を肥料にして、その水を農業生産の方に回し、濾過してまた水を戻す。このように、一次産業は100パーセントの可能性がある。それをどうビジネス化するかが1つの課題。そういう風に我々は新しいものに挑戦する、漁業者と農業者が共栄して豊かになってもらわないといけないが、そういうチャンスはやはり見逃すべきではない。

<p>委員長</p>	<p>旧紀勢町の錦ではヒラメの養殖を陸上でやっている。地域の経営という考え方が出てくる。南伊勢町全体をどう考えていくかということで、非常に重要な意見。</p> <p>私からは、南伊勢町は高齢化が進んでいるが、町の外から見るとむしろ高齢者が元気な町に見える。この活力のある間に次の一手をちゃんと打っていくことが大事。そうは言いながら、委員がおっしゃったように、地域を支えてきた担い手の力は、年々下降していることも否めない。その中で、集落支援員の活用、あるいは地域おこし協力隊などの制度を利用して、うまくその地域の活力を補っていくということが必要ではないか。</p> <p>まずは一番多くご意見のあった、サロンをどうしていくのかについてお願いしたい。</p>
<p>高齢者支援課長</p>	<p>地域サロンなどの介護予防事業は成果として、当町の高齢者の年齢層に見合った介護度の認定度は非常に低い水準になっている。これらの事業を活発に継続していくことが大切だと考えている。</p> <p>昨年度の元気シニア健康教室は、9会場で426回、参加者が延べ6,227人の参加があった。地域サロンについては、33会場で651回、延べ8,000人超の参加者があった。その他にも、えるが教室やサンサン教室、げんき測定会など、様々な健康教室を継続して行っている。サロンは一時期コロナ禍で開催回数が減少し、参加者も減少した。一旦離れてしまった方々が戻ってくるのに時間がかかっているのも1つの原因と考えている。</p> <p>家から出にくい方々への対処や、サロンのマンネリ化による参加者数の減少、サロンの条件の緩和について今回ご意見を頂いた。社会福祉協議会の方で、生活支援コーディネーターが地域サロンについては動いていただいているため、どういう風にしていくのか一緒に考えてみたい。</p>
<p>環境生活課長</p>	<p>委員からご意見頂いた、当課が行った切原・五ヶ所・中津浜浦線の実証実験について、令和6年の2月1日から開始した。当初は3月31日までの予定であったが、それでは数値が掴みにくいということで、9月30日まで延長した。利用者数の実績は1日平均5.4人だった。この結果から本格稼働は厳しいのではないかと結論が出たが、実際に利用された方の意見が最も大事だと思い、切原公民館、中津浜浦漁村センター、船越公民館にて、実際に利用された方の意見を聞こうということになった。運転手にチラシを配布いただき、切原は3人、中津浜浦は10人ほど集まっていた。午前2便、午後2便という意見が当初出ていたが、利用者の意見を聞くと、午後1便あればという意見だった。12月に開催される地域公共交通会議にてこの意見を提示するほか、町営バスにおいてダイヤの再編を行うのか、またはデマンドバスにおいて充実化を図るのか、これらは再編における課題項目、協議の項目になると考える。</p>
<p>副町長</p>	<p>病院の高台移転の際にループバスを作った経緯としては、鳥羽の離島の取り組みを参考にした。鳥羽では、予約票の中に次に離島へ向かう船便の時間が記載してある。これを町立病院でも実施しようという意見があったが、その場合、急な検査等の際に対応がしにくい。できれば患者さんの方から、次の予約は何時やろうねと言ってもらえるような形で当面回していこう、ということになった。そのため、デマンドバスでの来院だとわかっている人には、帰りはどうなってますかと声をかけようという話になっていた。今はその声かけが休止になっているのかもしれない。病院の方にまた元の姿勢に戻そうと声かけしようと思う。予約票にバスの時間を記載することについては、診療時に先生方が検査を追加でしたいとなった際</p>

	に、バス時間を考慮して思い留まるということがないように、記載をやめているという事情がある。言葉がけでもう少しカバーできるように病院の方に話をしたい。
委員	(病院で) 定期バスで帰るのに間に合わないと焦っている方がおり、自分と順番を変えていいよと声をかけたが、もう事務所の方で処理されているから(順番を変えられなかった)か。
副町長	患者さんは受診が終わって受付まで戻られていても、それぞれのところが処理を行いデータが流れてこないと会計処理ができないため、ご不便をかけたのかもしれない。そのようなケースがあると医事課と会計に伝える。
委員	午後から予約を入れてもらったらと助言し、午後行かれた方は「空いていてよかった」と言われていた。高齢の人は午前中に行って早く済ましておこうと思う方が多いのかもしれない。
委員	デマンドバスについて、定期的に走ってくれるようになれば車は小さくなる可能性もあるのか。
環境生活課長	その可能性はある。
委員	以前に意見交換に来てもらった際も、この辺にも行ってほしいという声があり、職員がその場所を見に行った結果おそらくワゴン車なら入る様子だったため、それぐらいの大きさの車に変えられれば。
環境生活課長	デマンドバスはそういったことがメリットで、意見交換が終わってから参加された住民さんに伺って内幅等を検討しており、運営会社にも伝えてある。車両についてはそのように検討していきたい。
委員	皆さんは、町が何らかの形で動いてくれているということにとっても喜んでいる。
環境生活課長	実際に乗る人の意見を大事にしたいと思っているため、声を聞いて反映するのは当然と考えている。
教育委員会事務局長	文化祭の広報の仕方について、文化祭は現在、文化協会が主催となっている。過去において、町主催のときには広報等へプログラムが入っていたと思う。ただ、この文化協会の作品等について、プライバシー等の問題が最近は出てきており、作品は展示するのでオープンにはなるが、そのプログラムの集約と、南勢・南島を取りまとめるのに時間がかかったとのこと。今後はプログラムの作成等の話がまとまってスムーズに作成できれば、各所へのプログラムの設置やホームページ等での公表を進めたいと考えているが、文化祭自体の運営の仕方等も来年から考えていかないといけない。
まちづくり	集落支援員について、まちづくり推進課では、令和6年度から地域運営組織、その中にお

<p>推進課長</p>	<p>ける集落支援員の活用について取り組みを進めているところ。当町では、高齢者の見守りで宿田曾地区に集落支援員が入っているほか、高齢者のえるがあ教室の運営などでも集落支援員を活用している。地域に入っているいろんな取り組みをしていただいている方を集約して活かしている。</p> <p>そういった中で、現在穂原地区では地域の運営が難しくなっており、地域の運営について、集落支援員制度も活かし、地域と話し合いをしながら、地域運営のあり方について取り組みを進めていきたい。いろんな取り組みが地域運営組織としてできると思っているので、そういったところは、町から指示をするのではなく、取り組みたいこと等について地区の方に話し合いをしていただき、集落支援員にどういう風に活動していただくかという方向で進めていきたい。</p>
<p>副委員長</p>	<p>空き家をよその人に貸し出して人口を増やしたいという視点だけに感じる。そうではなく、サロン風にしたらどうか。</p>
<p>まちづくり 推進課長</p>	<p>空き家、空き店舗バンク制度の取り組みを進める中で、空き店舗を改修できる補助金についても実施している。現在2件の補助実績がある。そのようにいろんな補助金も活用して活動をしていただく方を増やしていきたい。そういった中で、地域サロンとしての空き家活用という点については、まだそういった動きにはなっていない。どんな風に取り組めるかは社協さんとも相談しながら、町としてもどんな支援ができるのか考えていきたい。地域サロンとしてその場を使うことに関して、条件の緩和も必要になると思っている。</p>
<p>委員長</p>	<p>サロンという一つの事業の枠組みの中で考えると、委員さんの話と噛み合わないことがある。高齢者だけではなく、その地域のいろんな人たちが集まれる場所を作って、その交流を活発にしていくという、そういう目的を持った意識を役場の方も持ってもらえれば、委員の提案というのも非常に面白いと思う。かつて飲食店だったところで実施できれば集まれるということ。だからそういうところを活用してサロンを開く、複数の委員さんがやっぱりこれが一番大事だと思っている。集まれる場所をそれぞれ地域ごとに作っていくことを検討いただきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>委員の意見に関して、こども食堂について最近テレビでやっていて、こども食堂に子供たちが集まってきて、その子供の勉強を見る、そしてまた違う人が来て、高齢者が来てという風に、世代間交流ができる場所ができるのかなと思って聞いていた。ただ、こども食堂は補助金等の支援がないとできないということもあり、何か考えてもらえないかと思う。</p>
<p>子育て・福祉 課長</p>	<p>こども食堂ではないが、1つの団体がNPO法人として月2回程度で弁当を配る活動を行っている。学校の先生やOBなどが勉強を教えるという活動。これは来年、役場でも何か協力させてもらえればと今協議を進めている状況。この活動は南勢地区にはあるが、南島地区にはない。</p> <p>食堂については、この支援はなかなか手がつけにくいところ、財団法人などの支援があるためそちらの方を活用したい。</p>
<p>事務局</p>	<p>備蓄米の供給の部分に関しては、農林水産省が交付をしており、農林水産事務所で直接、</p>

	<p>備蓄米を交付している。また、子ども家庭庁の方で、子供の食事支援に関する補助金が確かあったと思う。支援条件等はあるが、国が動いてきているという現状はある。</p> <p>また、集落支援員制度は、その地域での話し合いや集落点検を行い、その中で発案された事業に対して人件費や活動費を補助する制度で、他の町では、地域の実情というのは、どちらかと言えば生活支援コーディネーターさんとか地域に入ってるの方が詳しいというところもあり、それらの方と連携するというやり方もある。いろんな方法があると思うので、また何かあれば相談させていただきたい。</p>
副委員長	<p>総合計画内部評価結果の 8 ページに、婦人会の解散、老人クラブの当連合会からの脱退、とあることについて委員に聞きたい。老人クラブの連合会からの脱退というのはある程度認識できるが、それ以前の問題として、各地区における老人会の解散があると思う。地域社会を見ていると、まず青年団の解散、子ども会の解散、婦人会の解散がどんどん増えてきている。今は老人会という流れがあるが、それはどのように考えればいいか。</p>
委員	<p>やはりリーダーの不足がある。連合老人会でも、個人の方でも老人会の会員になりたいという方もいるので、グラウンドゴルフ大会等のいろんな行事に参加できるようにすることも考えている。個人会員は現在 30 人程度。1 つの大きな問題は、やはりどの地区でも役員の手がいないということ。</p>
副委員長	<p>本当にいろんな組織が最近解散をしている。世代が変わってくると、それぞれ意識しなくても概念が変わっていく。それがいいのかどうかは別として、流れとしてはだんだんその方に向かっていくという気がする。その辺りで、今、古い思想と新しい思想がぶつかり合っているのかもしれない。我々の世代は個人を消してでも全体に染まっていき、協調しあうという文化で育っている一方、新しい世代は個人主義を前面に出して社会を形成していくんだというあり方。どれがいい悪いは言えないが。</p>
事務局	<p>お尋ねの内容は、老人会等がだんだん減少していく中で、社会的に変わってるところをどう捉えるかという理解でよろしいか。</p> <p>そういったところに関して、今やはり高齢者割合が増えて年齢が高くなり、何かやりたくてもできない状況が地域の中に生まれてくるだろうと思っている。その対処については、外部からの関わり方が一つあると思う。その一つは移住でもあり、移住まで難しいという地域もあれば、神津佐地区でファイトさんが関わってもらったように、外からの人との関わり方の検討や、代替機能をどう持たせるかというところがある。まずは、そこに暮らしている方々が困らないように、地域で盛り上げるやり方ができればそれを進めていきたいが、そこが難しい場合は、いかに代替機能を確保していくのかを地域の方と話をしながら進めていかなければならないと考えている。</p>
副委員長	<p>私が区長になって、この村の優しい人材を使って福祉のものに仕上げたいと思った時に、色々町域を超えて相談はしたが、ちょうど今の副町長が福祉課長の時で、行政からも随分支援をしていただいて、早く実現できた。だからそういうきっかけは本来なら地元が声をあげるべきだが、区長さんといえども様々にいろんな人がいるので、「それは町の仕事だ」「まちづくりの一環だ」という人もいれば、「地域資源を生かし地域を良くするには、まず</p>

区長は行政にアプローチするところから始まる」という考え方の人がいる。どれがいいかは強制できないが、そういうきっかけがあれば、行政はそれがみんなのためになるなら、大きな花が咲くような支援策をお願いしたい。

7ページのデータについて見ると、ほとんど山村になっている。人口規模が小さい。日本の集落の衰退をトレンドで見ると、まず過疎は山村からそういう現象が現れて、次が農村、最後に漁村が来ている。今、漁村が非常に急速な人口減少に悩んでいる。

そういう現象の中で、この表を見てショックを受けたのは、人口1万人を超えている南伊勢町がワースト19位、24位、14位になっていること。

また、太陽光発電で区民の所得を増やそうとしたところ、税金が大きく上がった。土地の所有者は農業者で、農業が疲弊したから農業者の所得を増やそうと思うのに、役場には多額の償却資産税が入るのになぜ重税をかけ続けるのか。先の町長に抗議をしたことがあるが、近隣市町に合わせそうであった。なぜ町独自の政策が取れないのか。それが地方自治なのだと思う。しかも分権の時代である。この横並び思想をある程度行政マンが排除していかないと。税法だから仕方ないっていう返事ですよ。

委員

副委員長のお話の中で、自分も太陽光発電の税金を伊勢の専光電気という神戸製鋼の子会社に依頼し、大江へ4ヘクタールほどメガソーラを導入したが、土地を売るのではなく、賃貸にして年間の収入を確保することを考えている。その中で、おそらく池、沼が1平米あたり15円ぐらいの税金だったと思う。100倍、200倍ほどに税収は上がっていると思う。そんな中で、農業委員会の中でその許可をする際、できる限り賃貸の方向で進めているが、やはりそれは個人の自由。最近は売買という形のスタイルが多く、企業の方もそれを土地・資産として受けた方が金融機関からの融資も受けられるため、そういう方法がだんだん多くなってはきている。区民も、先のことはわからないので毎月の賃貸にするより売却して一時金が入った方が良くという考えが多いようだ。しかし、どんどん税金は取ってもらい町が豊かにならないといろんな活力が生まれれないと思うので、これからもぜひ厳しい目で取っていただければと思う。

私は大江地区の老人会長もしているが、いろんなサロンへの出席要請が来る。その中で農業関係などの様々な話をしてほしいと言われる。高齢者は話をしてほしい、何か声をかけてほしい、と思っている。そこでどのようなマッチングにするのかということが高齢者は望んでいる。

もう1つは、委員がこども食堂の話がされたが、高齢者食堂はないのかと思った。自分たちが例えば500円出してもいいのだが、そういうことを取り組む中で、そのコミュニティが守られていくんだ、まだまだ元気でやるんだという風になると思う。田んぼの学校という取り組みを行っているが、小学5年生を対象に田植えと収穫をしてもらい、その体験が何か挫折した時の力になればと思い、続けている。来年からは老人会の皆さんにお手伝いをお願いしようと思っている。小さい子供とふれあったり、そういうことを教えたりすることによって、年寄りも楽しいし嬉しい。

(休憩)

<p>事務局</p>	<p>(輝きを持てるまちプロジェクトについて説明)</p> <p>輝きを持てるまちについて、町民評価の結果は前年度に比べ、取り組んでいると思う町民の割合が微増している。要因は、昨年第1回みなみいせまつりのような目に見えて一体感を持てるような取り組みがあったことが大きいかと思っている。他にも海づくり大会が開催決定したためそのPRや、オール南伊勢のポスターなどの情報発信が影響していると考えられる。</p> <p>12ページの目標達成のための主な取り組みとして、町内外の力を結集したまちづくりに関しては、第1回みなみいせまつりや、防災フェスタ、壁画イベントなど、内外の力を使いながら取り組んできた。13ページの目標達成の取り組みとしては、オール南伊勢のポスターによる一体感の醸成や、町の魅力の発信として南島中学校の中学生による三重テラスでの情報発信などを昨年度初めて行った。</p> <p>14ページの未来にバトンを渡せる輝きを持てる社会づくりについては、目標達成のための主な取り組みとして、うみべの家のプロジェクト、南伊勢滝巡りモニターツアー、穂原スケートボードパークでの取り組みなど、民間中心や民間と連携した取り組みが進んでいるところ。うみべのいえのプロジェクトは民間中心だが、南伊勢の移住、定住コーディネーターの方が取り組んでおり、穂原スケートボードパークも民間からスタートしているが、この整備にあたって町も支援をしている。滝巡りツアーについても、昨年度は結び目ワーキングなど、様々な団体と連携しながら取り組みが出てきているところ。</p> <p>15ページの脱炭素の取り組みとしては、三重県の熊野灘における藻場再生維持活動やおおさ等の養殖に関するJブルーカーボンクレジットの発行や藻場造成などに取り組んでいる。</p> <p>地元大学等の連携については、皇學館大学等と連携しながら、宿田曾地域での授業等における活動や、首都圏の大学生でのグループができており、中学校でのキャリアフォーラム事業も取り組んでいる。</p> <p>16ページ、私たちの夢や希望の実現、未来への挑戦については、昨年度、豊かな海づくり大会が令和7年に開催が決定している。チーム TRITON 南伊勢の取り組みで、昨年度は知事との円卓対話にて取り組みを紹介したり、海の未来を考えるワークショップを2回開催するなど、未来へ向けての取り組みを行っている。未来技術の活用については、IoTモニタリングシステムによる運用、海の見える化等の取り組みを行っている。</p> <p>17ページの評価結果の分析における町内外の力を結集した町づくりに関しては、みなみいせまつりについては豊かな海づくりの開催決定といった部分が評価の上昇に繋がったと思われる。それ以外は民間主導等、役場の関与が低いものが多いことから、取り組みの割に役場が取り組んでいるという割合があまり大きくなかったと思われる。私たちの夢や希望を実現する未来の挑戦、未来の社会づくりに関しては、新しい取り組みはそのプレイヤーが重複していたり、連携が生まれてきていると感じる。こういった取り組みを支援していく必要があると認識している。</p> <p>未来技術の活用をした実証的な取り組みに関しては、当町では一次産業分野におけるIoT活用の実証実験を行っている。未来技術の導入に関しては、社会課題の解決に見合う未来技術がどのようなものか見極めが必要で、現状としては検討段階のものが多い状況。</p>
<p>委員</p>	<p>穂原スケートボードパークの取り組みは本当に素晴らしいといつも思っている。その理由は、次世代を担う子どもたちがやはり南伊勢町へどんどん入ってきて、スポーツを通じて色々な発信をしていただいているため。スケートボードパークの大会を見に行っただが、スポ</p>

委員	<p>ーツを通じた家族的な雰囲気もあり本当に良かった。</p> <p>今年のみなみいせまつりは天候等の状況で残念な結果になったが、また来年に向けて心を一つに頑張っていたいただければ大成功すると思う。</p> <p>ある程度整備すれば里山的な町づくりができるような地域があるので、何か考えていただければと思う。</p> <p>不法投棄については私たちも何かやろうと思っている。投棄は家電ゴミが多いがリサイクル料の関係と思われる。また、個人の敷地のゴミは基本的に個人が対応するものだと思うのでそこが難しい。投棄されて何十年も経っている家電ゴミも家電リサイクルの対象か。</p>
委員	<p>先ほど副委員長から農業と水産業におけるアクアポニックスについて言及があったが、南伊勢町でも実際にチョウザメとクレソンの生産工場の運営をしている事業者がいる。将来的に農業と水産業の生産ができる工場を作っていければ、雇用も生まれ、食料として出荷できるのではないかと思った。(役場は) 第一次産業における IoT の活用の実証実験を行っているとのことだが、アクアポニックスのような分野でも実証実験を進めていくのがいいと思う。</p>
委員	<p>自分は穂原スケートボードパークを民間のスケートボード連盟と一緒に発起させていただいている。今年度は、長年の悩みであるパークまでの水たまりの解消について、町長の方から声掛けを頂き、教育委員会から補助金を頂いてパークの通路整備を行った。</p> <p>現在、パークはオープンから1年と半年が経ち、計6,715人の来場がある。内訳は、町内3,866人、三重県内の町外2,036人、県外336人、地区不明477人となっている。この数字はパークに設置した無人受付名簿による。100パーセントではないが、来場者の市町を書きいただくようになっており、三重県内では19市町、県外では北海道から沖縄まで16都道府県から来場いただいている状況。子供と大人の比率は、子供が39%、大人が61%。現状このようにいろんな県外の方に来場いただいております、またオープンから2年ほど経ち、全国のスケボー関係者との繋がりもでき、InstagramやYouTubeで取り上げていただいたりしている。海外で活躍されている選手や、オリンピックのコーチ、オリンピックの選手なども何度か来場いただいた。そういった方が、穂原のパークで滑っている様子をSNSやYouTubeにアップすることによって、また来ていただくという流れができています。</p> <p>そんな中、問い合わせで「大会をやりたい」「合宿をしたい」等の声があった時に、飲食店や宿泊施設などについて聞かれる。当初からチラシの配置や南伊勢町に関する掲示は行っているが、多くの方の来場がある中、民間だけではそれらの対応が難しくなっている。土地や施設のことについては、管轄部署レベルで教育委員会や管財の担当者にお世話になっているが、これだけの人の流れができ、関係人口ができてきた中で、それを例えば観光商工課の視点で何か利用できないかといった、役場からの視点でもっとうまく利用できないかと思っている。</p> <p>そういった部分では自分たちは素人。このパークがきっかけで多くの方が南伊勢町を訪れるということが起こっている中、総合型地域スポーツクラブの考え方で、(スポーツは) スポーツをする人、見る人、支える人がいて初めて成り立つという風になっている。私たちも自分たちの視点で、できる限りあの場所が続き、皆さんにとって楽しい場所であるようにしていきたいが、ぜひ役場の皆さんの知恵をお借りしながら、みんな一緒になって、もっと来</p>

	<p>てくれる人が楽しめて南伊勢町にまた来たいと思えるきっかけになれるような場所になっていけたらいいなと思っている。以前自分がスポーツネットの頃に、役場の方たちに行政の課を越え親身になって助けてもらったことがあり今があると思っているので、自分たちにできることで行政と一緒に働いていきたいと思っている。ぜひよろしくお願ひしたい。</p>
<p>委員</p>	<p>他の会議だが嬉しいことが繋がっているということを知りたい。</p> <p>介護保険の計画策定委員会の際に、宮崎先生が「医療と介護をもっと密着して連携を取っていききたい」と言われていたことが、最近実際に行われていて驚いた。町立病院の利用者で老老介護をされている家で、おじいさんが倒れて高熱が出て、さくら苑を利用していたので高熱なので今日は休まないといけないと連絡したら、さくら苑から町立病院のみかんさんに連絡し、みかんさんが家へ駆けつけてくれた。これは病院へ行くべきだとなり、近所の方が連れていってくれた。結果コロナということがわかり、おばあさんだけであればどうすることもできなかったが、みかんさんが来てくれたおかげでコロナだということが発覚した。本当に医療と介護の連携が取れているということに驚いた。弱者、高齢者の喜びの声で安心できることだったので共有した。</p>
<p>委員</p>	<p>自動運転について、もし南伊勢町でも自動運転を導入した場合、狭いところでも入っていけるのか気になる。高齢者で移動が心配な方の場合はこういう自動運転車が使えればいいなと思う。また、ライドシェアはタクシー会社でないと実施できないのか。</p>
<p>環境生活課長 委員</p>	<p>志摩市が実証実験をしている。</p> <p>南伊勢町も近々そういうことを実施するのか。</p>
<p>環境生活課長</p>	<p>地元の会社が2社あるが、例えば通学関係の業務について相談した際は、現状は保育所送迎等も受けており、やりたいが人員の都合でできないとの回答だった。7年度予算もあり地元の業者にやってもらいたいが、規模的に伴っていないのが現状。実証実験するのはいいが、地元のタクシー業者では厳しいという現状。</p>
<p>委員</p>	<p>それはタクシー会社しか実施できないということでもいいか。二種免許・福祉業務を営業しているところしかできないのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>ライドシェアは2種類あり、タクシー業者が参入するようなライドシェアと、わがらが実施している過疎地有償運送のような、自家用車を使って地域内で輸送する制度がある。</p>
<p>委員</p>	<p>社協も町の委託で福祉有償運送を行っており、この度11月に社協でも運転講習会を実施できるようになったため11月に行った。実施の許可がなかなか降りず、降りてきたのが急だったため、受けた方は社協の職員ばかりとなった。今、町の委託で実施しているが、それ以外で実施することもできるのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>ライドシェアと福祉有償運送の枠組みは異なる点がある。タクシー事業者が行うようなライドシェアは、タクシー不足のためタクシーの支障のない時間帯に、タクシー事業者がその</p>

	<p>方を雇用して実施する制度。もう1つは過疎対策という意味で、タクシーなどの交通事業者が不足する場所に対して、公共交通会議から許可を得て走らせるという制度がある。それも時間帯等を取り決めて実施するが、そういったこととは違うものか。</p>
委員	<p>現在、子育て・福祉課で受けてもらっているのは、決まりがある中で行う福祉有償運送のため、必ずその規定の中には入っているが、ただ、対象はより重度の方だけのため、もう少し軽い方も対象にそういう制度を取り入れられないかと思った。</p>
委員長	<p>役場の事業ではなくて、社協の事業としてやれる可能性はあるかということか。</p>
委員	<p>その通り。</p>
子育て・福祉課長	<p>まず、福祉有償運送については、障害レベルにあり、タクシーのような中で社協さんが今現在やっているものになる。</p> <p>それとは別で、わがらが実施している事業は、対象者が一定の地域内のエリアと決められている。その中において送迎ができるもので、どこにでも行けるものではない。有償報酬で、対象は特定のエリアの会員の方と限定されてくる。これは地域公共交通会議にかけて承認されれば実施可能だと思われる。</p> <p>ただ、どうしても料金差ができてしまうとタクシー業者ほど負担がかかるということで、いろんな面で話し合いをする必要がある。そのため、南伊勢町全域を対象とすると、地域公共交通会議で許可が出にくいと思う。</p>
高齢者支援課長	<p>介護支援専門医のケアマネージャーの集まりがあるが、その時に度会町の福祉タクシーの方に来てもらって説明いただく予定。その方とその福祉タクシーの方は条件があるが、南伊勢町も来てくれて送迎してくれる事業者。ただ、福祉タクシーは玉城町や度会町はあるが、町内は民間ではない。タクシーは、300円程度で当町へ来てくれる。そのような利用もできるということを、このケアマネの会議の中で説明してもらおうと考えている。</p>
委員長	<p>いくつかあった質問に対する答えをいただきたい。委員の、農業と漁業の一体化、IoTの活用についてはどうか。</p>
まちづくり推進課長	<p>これからどのように新しいことを実証実験していくかということも合わせて、水産農林課が担当課として実施していくが、まちづくり推進課としても、町としてそれをどういう風に進めていくかは当課の方でも考える必要があると思っている。水産農林課と連携を取りながら考えたい。先ほど言われたチョウザメとクレソンの事業者はどこでされているのか。</p>
委員	<p>南伊勢町の事業者で、大台町の宮川の源流あたり。</p>
委員長	<p>2つ目の質問で、里山づくりなどをしたらどうかという話の中で、家電ごみがたくさんあることについてはどうか。</p>
環境生活課	<p>不法投棄の問題について、家電用品目はリサイクルするのにお金が要するため捨てたい人が</p>

長	<p>出てくる。当然、個人の敷地に投棄すれば個人の責任になる。先日、神津佐に大きなゴミ袋10袋が投棄されていた。中身を確認すれば不法投棄の犯人が判明する場合もある。今は捜索中の看板を立ててあり、警察立ち会いの下追跡する予定。不法投棄対策として、区長や町民から報告を受け次第看板の設置等に対応しているが、それでも追いつかない場合は、今年からトレイルカメラというものを導入している。10数機が監視カメラとして備えてある。(従来のカメラでは)職員が4、5名で電池交換を行いデータを吸い上げるという作業が追いつかない。トレイルカメラは太陽光で動き電池交換が不要。データについても、今までSDカードで吸い上げていたが、トレイルカメラならスマホでもデータが確認できるほか、役場のパソコンでもIDとパスワードを入力すれば、20秒ごとのデータを見ることが可能。そういったものを今から充実し、不法投棄の防止を7年度から進めていきたい。</p>
委員長	<p>スケートボードパークに県外からも来場者があるという中で、こういった交流事業をうまく利用できないかということ、また、スケートボードパークを利用して行政と一緒に何かできないかという話しについてはどうか。</p>
教育委員会 事務局長	<p>今のところは予定はないが民間が基点になって今の状態を作っていただいているという経緯があり、教育委員会として整備補助をさせていただいている。今後、民間で活用してもらいながら、例えば収益を上げて何か広げていただけるということに関する対策としては、行政が携わってしまうとお金も生まない部分もあり、今後協議が必要。指定管理などで考えていく必要があると思っている。</p>
委員	<p>昔、自分たちの収益にしてやりくりしていきたいと思いトレーニングルームを始めた際、行政の土地で一団体が収益を上げてはいけないと言われた。スケートボードパークはどうか。</p>
教育委員会 事務局長	<p>ジムの方もだが、その建物自体が今体育館の中に入っているかと思う。体育館とジムを一体で指定管理という形で募集して受けていただける形になれば、宣伝や料金設定等の全てをしていただくことになるが、指定管理のため最高金額は決めさせていただく形になろうかと思う。その形で運営していただくことは可能。ただし、指定管理という形の中で、法人やNPOなどの民間の企業として運営していただく必要が生じる。</p>
委員	<p>スケートボードパークも同じか。指定管理の場合は収益を得ることは可能で、現状、トレーニングルームもパークも収益を得ることはできないという認識でよいか。</p>
教育委員会 事務局長	<p>現在は収益を生めないという形。</p>
委員	<p>これから先、そういったことを望んだ場合、どこの窓口で相談すればいいか。</p>
教育委員会 事務局長	<p>今のところ、体育館については教育委員会となる。スケートボードパークは無償貸付だが庁内で整理する必要がある。今は管財契約課になるが、直接指定管理を出すことができない部署のため、どの部署が受け持つかは検討が必要。</p>

<p>委員長</p>	<p>公の施設は町のサービスとして運営しており、それを指定管理するという枠組みのため、町の定めに従って料金が発生するのなら、町が取るべき料金を代わって徴収する形になる。普通財産なら貸付を受けているという形。穂原小学校は普通財産である。貸付を受けているので、その貸付の条件に従って使う。そのため、収益を生んではいけないという条件で借りている場合は収益が生めないが、それをどうするか役場とよく話し合えば、法的には借りた側が料金を取ることは可能と思われる。財産管理としていけないということにはならない。</p> <p>その辺りを踏まえ、まずは団体でどう運営したいのかをある程度書き、どうすれば合意が得られるかということを確認したらどうか。教育委員会は体育館については公の施設として財産管理をしているが、例えば交流人口を観光に生かすとなれば違う部署になる。役場ではそのような話し合いをできる体制を作り、団体の方では事業計画を立て、やりたいことを話し合う場を作って、お互いいい方向で、町が活性化する方向で議論するというところでどうか。</p>
<p>まちづくり 推進課長</p>	<p>そういう場が設けられるように、庁内の担当課の調整と合わせて検討させていただく。スケートボードさんがどのようにパークを使いたいかについても検討いただければ、こちらも対応できる。その部分についてはまちづくり推進課でも対応可能。その上で担当課も決定したい。</p>
<p><b><u>(2)その他全般に関する感想・意見</u></b></p>	
<p>委員長</p>	<p>その他ご意見なければ、副委員長からご意見を賜りたい。</p>
<p>副委員長</p>	<p>教育委員会事務局長の発言は表現が直線的でわかりやすい。行政にはいろんな人材がいる。先ほどのテーマもかつてないテーマなので、まちづくり推進課が中心となって素晴らしい提案をしてくれると思う。</p> <p>この場はチャレンジ精神があり、とても良いディベートの場になっている。自分も総合計画の策定に関わっていたが、その文言には「稼ぐ力を育てる」「町内外の力を結集したまちづくり」など、住民から見れば非常にインパクトの強い言葉が見え隠れしている。これは町長の「オール南伊勢」という言葉を掲げ新しい行政を目指したいんだという思いをかみ砕いたものだと思う。我々住民には非常に胸に響くので期待感を持っている。そんな期待に応えて皆さん様々な意見をたくさん言ってくれている。自分自身も勉強させていただいている。</p> <p>イノベーターがいないとイノベーションが起こらない。イノベーターはパイオニア。新しいことをやろうとすると、最初は良いことを言われたい。日本は保守的で変化を望まないから経済が30年も停滞していつてしまうし、国際的な目線でもこれまで築いた様々な地位が低下している。この実態には、イノベーターが育たない風土がある。この雰囲気破ってくれるのはごく少数のイノベーター。その方たちを評価しなければならない。</p> <p>委員からチョウザメの話聞いた際に自分も感心した。このような挑戦者にはリスクも多いため、相談やサポートを行うことが必要という、行政の姿勢も今回の話で把握することができた。そのような人が少しでもこの町から育てばありがたい。</p> <p>穂原のスケートボードパークについても来場者が6,700人を超えているとのこと。今日は</p>

	<p>そういったことを聞いたのもまさしく収穫でこの会議の本質だと思う。こういう機会、雰囲気ますます広がって行ってほしい。</p>
委員長	<p>活発なご意見を頂いた。このような場をつくられたということは、オール南伊勢でやろうという姿勢の表れだと思う。課長の方々は役場の発想を超えるような様々な意見が出てきて困った部分もあったのではと思うが、そういった役場の発想を超える部分を含めて、もう一歩進めていこうということだと思う。既に先に進んだ取り組みも始まっている。委員の皆さんの意見を活かして役場と一緒に協力してやっていきたい。</p>
委員長	<p>最後に代表して副町長から一言頂きたい。</p>
副町長	<p>町内外の力を結集して、というときに役場と何かの関係と誤ってしまいがちだが、町内は役場も民間も一つになって、それをもって町外と一緒にやっていくことが大事。階段はいくつもあるのだと思うが、小さなステップでもいいので一つずつ上がっていきたいと思う。</p> <p>また、本日発言していない課長からも一言お願いしたい。</p>
総務課長	<p>総務課は財政を担当しており、各課は皆様の意見を形にして新年度予算を作成してくると期待している。そういった気持ちを大事にしながら編成していきたい。</p>
税務住民課長	<p>税務住民課は高齢者医療を担当しており、高齢者支援課や子育て・福祉課と連携して、皆様がいつまでも元気でいられるように努力していきたい。</p>
	<p>4 閉会</p>
まちづくり推進課長	<p>今回、前回に頂いたご意見は今後の取り組みに反映し検討していきたい。また、来年度は今回の総合計画の基本計画の最終年度となっている。今まで頂いたご意見の進捗、その報告を来年度させていただきたい。来年度以降に策定予定の後期総合計画についても、それに合わせた全てのテーマについて意見交換の場を設けたいので、その際にはご出席をお願いしたい。</p> <p>それではこれもちまして推進会議を終了としたい。ありがとうございました。</p> <p>—終了—</p>